

# 奥会津だより



山から引いた冷たい水で洗う大根、カブ、白菜  
いずれも半日ほど太陽を浴びさせて保存する  
雪の足音を間近に聴きながら  
追い立てられるように越冬の支度が進められている

写真：田沼隆之

# おじいさんのおじいさん

檜枝岐村立檜枝岐小学校 六年 星 匠



この写真は、昭和二十五年ごろの写真です。このころは、ヘリコプターがないので、ふとんや、食料を、背中にしよって、尾瀬まで運んだ。さらにこのころは、木道もなかったもので、草の上を歩いていった。湿原も同じように、草の上を歩いていった。

手ぶくろは、動物の毛皮をぬって作っていた。くつは、わらじをはいていた。

ごはんは、おじいさんが川で岩魚をつって、家に持ち帰り、家で焼いて食べていた。飲み物は、はちみつを水でうすめて、はちみつ水を作っていた。

はちみつ水は、「はちみつ

を、節約できるから、とてもいい飲み物だ。」と、言っていました。

洋服は、和服を着ていた。「洋服は、洗うたびに、ボロボロになっていった。」と言っていました。

雨具は、みものという、手作りのものを着ていました。寒い日は、灯油がわりに、松の根っこを燃やしていました。

檜枝岐で事件があると、連絡方法がないため檜枝岐から歩いて尾瀬まで十時間ほどかけて伝えに行った。

ぼくは、昔の人は、とても大変だったんだなと思いました。

## 取材ノート



祖父：星 公雄 さん  
(昭和13年生)  
孫：星 匠 君  
(平成15年生)(檜枝岐中1年)

Q：匠(たくみ)君という名前は、ご両親がどのような想いで名付けられたのでしょうか？

匠君：いろんなこと、いろんなものを上手に出来るように、と聞いています。

公雄さん：そうか、お父さんが、そう言ったのか・・・。

Q：題名の「おじいさんのおじいさん」というのは？

匠君：おじいさんのおじいさんのやっていたことを聞いたからです。

公雄さん：私の父は、私が2歳の時に戦死しています。ですから、祖父が親代わりに育ててくれました。

Q：装を着て、何を背負っている写真でしょうか？

公雄さん：檜、こっちの方では「ネズコ」と言っていましたけれど、その太い根っこを板にして檜枝岐に下りてくる場所でしょうね。

Q：背中に背負って尾瀬まで運んだ。

公雄さん：昭和7年頃から、山小屋はあったんです。その頃のお客さんは5



月から10月までの1シーズン50人ぐらいしかいなかったです。長蔵小屋の次に出来た小屋でした。

Q：木道が出来始めたのが昭和30年代、お客さんも増えたのでは？

公雄さん：あれは、何年頃だったかなあ・・・、江間章子さん作詞の「夏の思い出」あの歌が出来てからお客さんが増えたんです。

Q：飲み物の「はちみつ水」とは？

公雄さん：蜂蜜は昔から檜枝岐村にもあったんです、他に飲み物が無かったから蜂蜜を水で割ってお客さんに一杯いくらで販売したんです。栃の花の蜂蜜でした。

Q：灯油がわりに松の根っこを燃やした・・・

公雄さん：尾瀬は、燃料関係は薪だったんですよ。薪を伐るのに4月の始めから入ったんです。雪がいっぱいある時から。

Q：カンジキをはいて、10時間かけて山小屋まで歩いて行ったのですか？

公雄さん：そうそう、何年間も続きましたね。私の子どもが出来てからも薪を作りに行っていました。暖房もご飯を炊くのもお風呂も薪でした。鉱泉

があったので、それで「温泉小屋」というのです。

Q：薪にしたのは、何の木でしたか？

公雄さん：ブナでした。直径1メートルぐらいのブナがありました。ブナの木は良く割れて、いい薪になりました。

Q：匠君は、写真を見ながら話を聞いてどうでしたか？

匠君：この写真は何をしているのか全く分からなかったのですが、おじいさんから話を聞いて、とても大変なことをやっていたんだ、と驚きました。

※尾瀬の生き字引でもある公雄さん。公雄さんが高校生の時に父親がわりの祖父が事故で亡くなり、中退して温泉小屋(山小屋の屋号)を継いだ。

(写真・文責：菅 敬造)

## 不思議な話

栗城ナミ子さん

(昭和12年生まれ・昭和村)

人の家の池に入って、まるで湯に入っているように気持ちよきそうにしてる男の人がいたって。「ぬしゃ、なにやっつてんだ」と声かけると、はっと目を覚ましたようになつて気がついたって。

秋の夜、部屋にいたら、外で誰かがぐずぐずいつまでも喋っている。こんな夜に誰だろうと出てみたら、刈り取った稲を干すネリの陰に、隣の男がひとり座って、誰か相手がいるようにして喋っていた。

(採録：渡部 和)

## 奥会津の食材と料理



里芋のじゅうねん味噌

里芋は秋野菜の王様。煮物のもとより、焼き物や里芋ご飯など料理の幅も広く、これから春まで食卓を豊かに彩る。じゅうねん（エゴマ）も収穫期を迎えた。刈り取りから乾燥まで幾重にも手をかけた小さな粒は、さながら名脇役のように様々な素材を引き立てる。薄味で炊いた里芋をじゅうねん味噌で包んだ一品は、秋の食の醍醐味だ。

## 奥会津の生き物たち

ヤマセミ



白黒の美しい鹿の子模様をもつが、遠くからは白っぽく見える。奥会津ではカーグラといい、溪流や湖沼に生息する。水面上に突き出た枝に止まり、水中に飛び込んで小魚を捕らえる。それは見ていて飽きることがない。

(鳥と花の写真・文：新国 勇)

## 暦に添う暮らし

### 小豆干し



秋晴れの軒先は忙しい。つかの間の陽光に、刈り入れて乾燥させた様々な作物の最後の仕上げをほどこす。小豆やエゴマ、里芋などは、十分に陽を浴びてミネラルを蓄える。冬の大切な保存食だ。

晩秋のあたたかな日差しの中で、ほどなく雪で覆われる地面や山肌を、万感の思いで見つめるときだ。

### ミヤマガマズミ



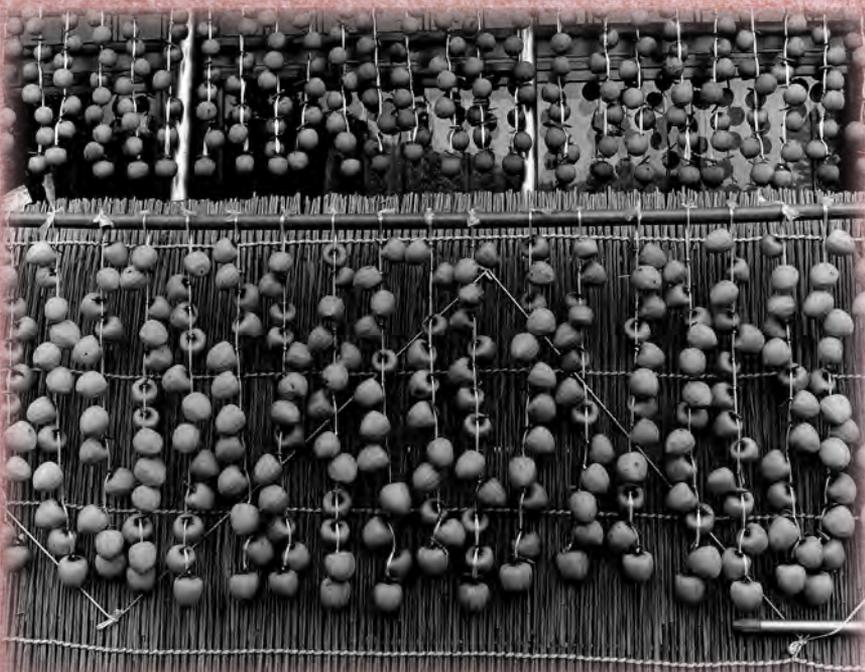
真っ赤に熟した果実は、晩秋の山中でひととき目立つ。ガマズミより標高の高い場所に自生する。美味とはいえない実がだが、果実酒にすると、うつくしい朱色の酒になりおいしい。小鳥たちにとっては、たいせつな食料。

## 軒先の風景

写真・文 竹島 善一

柿は日本の秋を彩る風物のひとつである。たわわに実る姿も、花とはちがう存在感を持つている。会津は身知らず柿で知られる渋抜き柿が多いようだが、干し柿も作られる。渋柿も干されて甘みが濃縮され、昔は甘味料にもなったと聞いた。葦張りを背景に皮をむかれ紐でくくられた柿の一群には、丹精がうかがわれる。

(平成17年12月 三島町松原)



# Q方言クイズ

クイズに答えて奥会津の地場産品を貰おう!

問題：次の方言の意味は何でしょう?

## 「カンジキ」

ヒント：P2. 聞き書きをご参照下さい。

正解者の中から抽選で2名様に、昭和村の「からむし織巾着」をプレゼントいたします。

●応募方法：官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先：〒969-7511

福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979  
奥会津書房 宛

●応募締切：2015年12月15日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。※クイズの答えは次号90号で発表いたします。



## ◎88号「早くきやれ」の答え：早く来て下さい

たくさんのご応募ありがとうございました!

# 読者コーナー



- 「奥会津だより」の手の感触がとてもいいです。手をふれると読みたくなります。(千葉県我孫子市:N.Kさん)
- 毎号楽しみにしています。取材ノートのコーナーは三世代間(孫と祖父母)のほのぼのした会話が掲載されていて、特に好きです。(東京都:M.Yさん)
- 表紙の写真に若者が載った(88号)のは、初めてではないでしょうか。若者たちの頑張る姿を見るのはいいものです。日本の農業や林業は、これからが正念場ですね。若い力で未来を切り拓いてほしいものです。(東京都:M.Iさん)
- 今ではほとんど見かけなくなりましたが、堆肥枠は農家にとってなくてはならない必需品でした。稲刈りが終わるとどこの家でも、田畑の近くで押し切りを使ってわらを細く切って堆肥枠に入れ、良く踏みつけてどンドン枠を上げて高く高く積み上げていきました。子どもの頃、良く手伝われました。本当に懐かしい光景です。(昭和村:T.Tさん)
- 表紙で、高校生たちが汗を流して林業実習を行っている姿に驚きました。これからも森を守ってほしいです。(茨城県那珂市:O.Hさん)

## 奥会津だより 定期購読者募集中

ご希望の方は事務局まで発送先(ご住所・お名前)をご連絡ください。

問い合わせ先：只見川電源流域振興協議会事務局

TEL.0241-48-5525 FAX.0241-48-5575

E-mail: webmaster@okuaizu.net

# ホームページが リニューアル

歳時記の郷・奥会津のホームページがリニューアルしました。新しいサイトでは、デザイン・構成を一新し奥会津の温泉・グルメ・イベント等の旬な情報を皆様により見やすく発信していきます。

また、ホームページでは皆様から投稿していただいた奥会津の写真に掲載しております。是非、奥会津へお越しいただき写真を撮って投稿してください。

歳時記の郷・奥会津

検索



奥会津フェア  
特別企画

## 奥会津の素材とドキュメンタリー映画「春よこい」上映

2015年  
12月27日(日)  
●10:30～スタート

会場：熱塩温泉 山形屋

参加費：お一人様 3500円(税・サ込)

定員：50名 [食事代・入浴料込]  
※ランチのドリンク料は別途

12月20日(日) 申込〆切

お問い合わせ・お申し込み先

電話：0241-36-2288

FAX：0241-36-2290

主催/只見川電源流域振興協議会



## 奥会津イベント情報

11月下旬～1月

日時	イベント名	町村名	場所	問合せ
12月19日(土)	只見スキー場オープン	只見町	只見スキー場	只見スキー場 ☎0241-82-2304
	会津高原南郷スキー場オープン	南郷地域	会津高原南郷スキー場	会津高原南郷スキー場 ☎0241-73-2111
	会津高原高畑スキー場オープン	伊南地域	会津高原高畑スキー場	会津高原高畑スキー場 ☎0241-76-2231
12月23日(水)	フェアリーランドかねやますスキー場オープン	金山町	フェアリーランドかねやますスキー場	オープン前：道の駅奥会津かねやま ☎0241-55-3334 オープン後：フェアリーランドかねやますスキー場 ☎0241-54-2022
12月下旬	会津高原たかつえスキー場オープン	館岩地域	会津高原たかつえスキー場	会津高原たかつえスキー場 ☎0241-78-2241
	尾瀬檜枝岐温泉スキー場オープン	檜枝岐村	尾瀬檜枝岐温泉スキー場	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
1月上旬	第27回SAF公認檜枝岐カップ(SL、GS)			
1月7日(木)	七日堂裸参り	柳津町	圓藏寺	柳津町観光協会 ☎0241-42-2346
1月14日(木)	両原早乙女踊り	昭和村	昭和村両原地区	昭和村役場産業建設課 ☎0241-57-2117
1月15日(金)	サイノカミ	三島町	三島町各地区	三島町教育委員会 ☎0241-48-5599
1月24日(日)	第43回只見毎日杯GS大会	只見町	只見スキー場	只見スキー場 ☎0241-82-2304
1月中旬	南郷早乙女踊り	南郷地域	上町・上平、界、鶴巣地区	南会津町観光物産協会南郷観光センター ☎0241-64-5811



発行：只見川電源流域振興協議会(柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町(南郷、伊南、館岩地域)・檜枝岐村)  
発行日：11月16日発行(年6回発行) 事務局：〒969-7511 福島県大沼郡三島町町民センター(奥会津振興センター内) TEL.0241-48-5525  
http://www.okuaizu.net ☐webmaster@okuaizu.net 編集：奥会津書房 福島県大沼郡三島町宮下 TEL.0241-52-3580

★只見川電源流域振興協議会は、福島県只見川流域の7町村の活性化と振興を図るために活動している団体です。

この冊子は電源立地地域対策交付金の事業により作成されています。